

みのわのイクメン手帳 ～お父さんの男女共同参画編～

人は、生まれながらにして「男らしさ」「女らしさ」といった性別による役割が決まっているものではなく、これまでの社会が求めた「らしさ」の教育やしつけなどによって作られてきたのではないのでしょうか。男女の良さを否定することなく、個性を認め合い、自分らしく生きることができたら良いと思いませんか？

箕輪町では、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会とするため、「男女共同参画推進条例」と、「男女共同参画計画」をそれぞれ策定しています。

今回は、家庭内での男女共同参画にスポットをあて、お父さんの男女共同参画について考えてみましょう。



1. 家庭の中での役割分担

家事も育児も介護も家族で協力できると良いですね。「男だから」「女だから」という固定概念にとらわれることなく、家族みんなが家庭の仕事の大変さ・大切さを知ることが、とても大切なことではないでしょうか。

◆お父さん、お母さんに聞いてみました

うちはお互いが良いバランスで分担しています。夫が料理を作ってくれますが夫の両親の理解も大きかったです。(30代・女性)



妻に押し付けず、出来るときは出来る方がやるという感じで家事、育児をするように心がけています。(30代・男性)



共働きなのに、明らかに私の方が家事・育児の負担が大きい。夫には働き方と一緒に家事・育児に対する姿勢も変えてもらいたい。(30代・女性)



自分もやらなきゃいけないと思いつつ、ついつい仕事を理由に家事・育児をサボってしまいます。(30代・男性)



あなたのお家ではどうですか？

2. お父さんの男女共同参画

男女が共に生きがいを持って充実した暮らしができるように、まずはお父さんから意識改革をしてみませんか。「男だから」「女だから」という意識が、大切な家族の可能性や思いを抑制しているとしたら大変悲しいことです。まずは、自分自身の意識や行動を見直してみましょう。

◆ちょっとまった！こんな言葉つかってない？

「男は度胸、女は愛嬌」 「女の腐ったの」 「職場の花」 「男の子なんだから、女の子なんだから」

ここにあげたのは、日常生活で何気なく使われていそうな言葉です。長い歴史の中で、私たちの生活に浸透してしまっている「男とは、女とは」という意識が表れていませんか。言葉遣いを通して、ほんの少し意識して直してみませんか？

◆今日からやってみよう！

〈子どもと一緒に遊んであげたい！でも仕事が…〉

「子育てのために早く帰りたい」そう思っても、中々職場から帰りづらいものです。そんな場合、子どもがいることを普段から職場に理解してもらうことが、定時退社や育休を取得しやすくするポイントです。例えば、デスクに子どもの写真を置いたり、同僚との会話の中で、家族の話をしたりするなど、家族の存在や状況を周囲に知ってもらうようにしてはいかがでしょうか。

〈お父さんがやりがちNGワード！〉

お母さんに対する「育児・家事を手伝ってあげる、協力するよ」はNGです！二人の子どもなのに何で上から目線なのかと受け取られることもます。また、ついつい、男性はパートナーの話に対して分析・解析して会話しがちですが、分析・解析するのはNG。女性が求めているのは「大変だったね、頑張ったね」といった共感のみです。そして「ありがとう」が一番大切です。

〈家事・育児に参加する準備をしよう！〉

「遊ぶ時に気をつけることは？」「離乳食を楽しく食べさせるには？」あなたは知っていますか？自信を持って家事・育児に参加できるように準備をしましょう。ながのイクメン手帳には、そんなお父さんを応援する、家事・子育てのあれこれが沢山載っています。これから家事・育児を始めるお父さんも、現在頑張っているお父さんも是非ご一読ください。

3. インタビュー 女性活躍井戸端会議の伊藤徳治さんにお話を伺いました

Q 長い間、男女共同参画の推進に取り組まれている伊藤さん。今までどのような取り組みをされましたか？

男女共同参画を進める住民の仲間と、“パートナーシップみのわ”という団体を作り、通信の発行や出前講座、セミナーの開催等啓発活動を行ってきました。

Q 男女共同参画の視点から、今の箕輪町をどの様に思われますか？

区や常会をはじめ、地域コミュニティでの男女共同参画が遅れていると感じています。

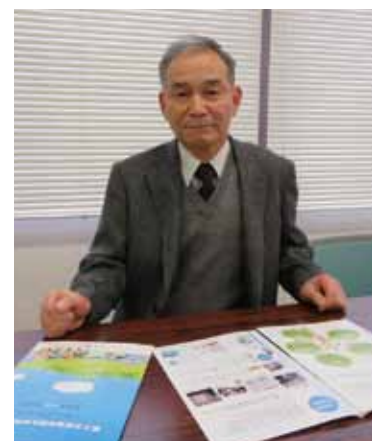
女性も役員を担えるような環境を作るとともに、男性が今以上に家事や育児を担って、女性が参加しやすくしていくことが必要だと思います。

Q イクメン手帳に期待することを教えてください。

年代や、子育て中か否かに依らず、全ての男性に読んでもらいたいです。皆の意識が変わり、例えば男性の育休取得が当たり前の社会通念になる。その為のツールの一つとなればイネ！と思います。

Q 最後に、家事・育児もがんばろうとしているお父さんたちに一言！

やってみて意外と面白いのが家事。
今しか出来ないのが育児。
両方楽しんでもらいたいです。



女性活躍井戸端会議の伊藤徳治さん

